

令和4年度「アーティスト移住・定住促進業務」

活動統括報告書(抜粋)

一般社団法人 葛力創造舎

2023年3月31日

目次

■はじめに

- Katsurao Collective(カツラオコレクティブ)名称の利用について

■2022年度の活動内容についての評価

- 1 期待された効果に対する評価
 - ①村に眠る資源や魅力をアーティストの視点から形にすること
 - ②アート・クリエイティブ産業に興味のある層へ葛尾村をPRすること
 - ③PRを通じ、新たな来村者(移住者・関係人口)を増加させること
- 2 事業全体に対する評価
 - ①事業全体の評価
 - ②移住者定着に対する評価

■事業運営について

- 1 事業運営に関する情報
- 2 事業計画
- 3 事業内容
 - ①Katsurao AIR(アーティストインレジデンス事業)
 - ②かつらお企画室(ワークショップ事業)
 - ③コワーキングスペースのトライアル運用
 - ④空き教室のスタジオ利用
 - ⑤広報活動
 - ⑥報告書冊子制作
- 4 予算執行
- 5 関連事業

■各月の主な活動内容

■次回の実施に向けて

■はじめに

本冊子は、2022年度に福島県双葉郡葛尾村で2022年5月1日から2023年3月31日まで実施したアーティスト・移住定住事業の活動をまとめたものです。2011年3月11日に発生した東日本大震災とそれに伴う津波により、福島第一原子力発電所で発生した原子力事故の影響により、葛尾村の全村民は村外に避難を余儀なくされました。2016年6月に帰還困難区域を除いて避難指示が解除され、2022年6月には特定復興再生拠点区域の避難指示が解除になりました。東日本大震災による原発事故の影響は村の人々の生活を大きく変えました。12年経った現在もその余波は大きく、村に戻ることができない人々も多く存在しています。一方で、多くの研究者や若者が引き寄せられるようにこの地に集まってきています。

本事業では、アーティストやクリエイターの地域での活動をサポートすることを通じて、村に眠る資源や魅力を発掘します。「Katsurao AIR」(アーティストインレジデンス事業)では、地域にアーティスト・クリエイターを受け入れ、彼らの視点から地域の魅力の発掘と調査、PRを行いました。

「かつらお企画室」(ワークショップ事業)では、月一回のワークショップの開催を通じ、移住定住に向けて地域の魅力に触れる機会を創出するとともに、村内外の人材の交流の場を作り出しました。ほかにもアーティスト・クリエイターと一緒に活動できるスタジオ整備、コワーキングスペース運営など、さまざまな企画・取り組みを通じ、地域へのアーリーアダプターとしてアーティスト・クリエイターを地域へ招聘することで、“自分らしい生き方”を求める移住希望者へ向けたPRを行い、創造力を基点にした地域コミュニティ、移住者の増加、関係人口の増加を行います。

本報告書の作成にあたり、本事業に参加いただいたアーティスト、クリエイターの皆様、事業運営にご協力いただいた全ての皆様に、心よりお礼申し上げます。

事業統括 森健太郎

Katsurao Collective(カツラオコレクティブ)名称の利用について

現代アートが社会での実践を展開し、アートと社会との接点が深まる現代において、“アーティスト・コレクティブ”(*)の存在はますます重要になってきています。コレクティブという枠組みは、アート活動を個人主義的な創作活動の枠から解き放ち、より多様でフレキシブルなアートの形を社会へと提示します。多様な価値観を持ちながら、創造性という価値でつながり一緒に活動を始める。Katsurao Collectiveは、この地でそのようなコレクティブとなることを目指すプロジェクト名であり、創造性という価値でつながる共同体の名前として設定しました。アーティスト・クリエイターへの本事業のPRのイメージ戦略として、本事業を紹介する際の名称として年間を通じて使用しました。

※共通の目標を達成するために活動するアーティストによって形成された集団

■2022年度の活動内容についての評価

1 期待された効果に対する評価

本事業は、従来から、①村に眠る資源や魅力をアーティストの視点から形にすること、②アート・クリエイティブ産業に興味のある層（イノベーター層・アーリーアダプター層）へ葛尾村をPRすること、③PRを通じ、新たな来村者（移住者・関係人口）を増加させること。以上の3点を主要な目的として実施してきた。まずは、その3つについてどのような成果が上がったかを検証する。

①村に眠る資源や魅力をアーティストの視点から形にすること

成果

・KatsuraoAIRでは6名のアーティストが短期移住者として地域で活動を行った。初の試みでありながら、国内外で活躍するアーティストが葛尾村に来村した。アーティストの日頃の活動をベースに、これまでにない切り口で村の資源、魅力を形にすることができた。

・かつらお企画室では6回のワークショップを実施した。

・アーティストインレジデンスで滞在するアーティストが調査する内容については制限（事務局からの指示）は設けなかった。自由に活動できる作家がいる一方で、一部の作家については自由すぎて難しいという意見もあった。

・かつらお企画室では、6回の実施のうち3回はニット糸を用いたワークショップであったが、同一の素材であっても講師によって素材に対するアプローチが異なるため、多様な切り口で葛尾村の素材を取り扱うことができた。一方で新たなアプローチについても模索していく必要がある。

・ワークショップ参加者からの評判は概ね好評であった。

・本事業へ参加したアーティストが、自主制作によるグッズ制作などをはじめた。本事業を通じて、アーティストが葛尾村の魅力を形にして発信するということが起き始めている。

②アート・クリエイティブ産業に興味のある層へ葛尾村をPRすること

成果

・本事業では「イノベーション普及学（1962）」で提唱されたイノベーター曲線における「イノベーター」「アーリーアダプター」に当たる人材が「アーティスト」「クリエイター」とであると定義し、それらの人材へ向けたPR活動を行った。

・本事業では、移住希望者の誘致、移住者の促進に向けた葛尾村の地域資源の発掘とPR、将来の移住へとつながる”自らの意志で能動的に葛尾村へ関わる人々”（関係人口）の創出を目指して実施した。

・全てのイベントを通じ、今年度の年間の来場者は5387人（Katsurao AIR関連イベント4105名、かつらお企画室事業67名、出張かつらお企画室事業1215名）であった。初年度でありながら想定以上の参加者を呼び込むことができた。また来場者がSNSで発信し、さらなるPR広報へ繋がった。

・広報活動は、チラシ・ポスターの配布、SNSでの発信、イベントの案内、直接の声かけの4点を軸に行った。チラシ・ポスターの配布が7354件、SNSでの発信が526件、イベントへの来場者が4172件であった。（3月25日時点）

・福島県浜通り地区で初のAIR事業としてPRを実施した。雑誌掲載、メディア掲載のほか、県外からも多数の視察があり、注目度の高さが伺えた。一方で村民からの注目度や理解度についてはまだまだ改善が必要な状況である。

・参加アーティストによるSNS発信は、投稿一件あたりのリーチ数、エンゲージメント数が高く効果的に発信がなされている。引き続き次年度も参加アーティストによるSNS発信を活用していきたい。

③PRを通じ、新たな来村者(移住者・関係人口)を増加させること

成果

・イベントの実施を通じて来村のきっかけを作り出し、葛尾村のPRを実施した。

・年間を通じて34名(組)のアーティスト・団体から、葛尾村での活動ができないか、事業への協力へのアプローチがあった。次年度のプログラム参加希望者を2023年2月1日～2月26日までの期間で募集したところ、海外からの応募も含め全国から14名のアーティスト・クリエイターから応募があった。

・コワーキングスペースについては、弊社の事業で来村した大学生を中心に利用者を募った。次年度の本格運用に向けて多数のフィードバックを得ることができた。

・本年度はプレ運用ということで利用者が限られてしまった。次年度はより広い層へ活用を図るため、引き続き整備を進めていくこととしていきたい。

2 事業全体に対する評価

本事業を実施する過程で発生した課題について、①事業全体への評価、②移住者定着に対する評価の2点から検証する。

①事業全体の評価

評価

・本事業は「令和3年度 アーティスト移住・定住促進事業」で行った調査結果に基づいて提案した「令和4年度 アーティスト移住・定住促進事業」事業計画に基づいて実施した。概ね当初計画の通り実施することができた。

・村で移住者むけの住宅を準備しているが、完成までに時間がかかる状況を踏まえ、戦略的に段階を踏んで移住事業を進めていく必要がある。移住者の獲得に向けた段階的な目標(KPI)を設定するとともに、移住者数以外の評価指標を加える必要がある。

・本事業を通じ、村外から多くの方が地域に来村し、飲食店の利用、宿泊、買い物などを行った。日本人国内旅行の1人1回当たり旅行単価は37,355円/人(2019年観光庁)である。本事業を通じた村への経済波及効果なども含め、多面的に指標を設定する必要があると考える。

・アンケート回答から、村へ来村したアーティストで最も多いのは30代であった。一方で、イベントへの参加者は20代が最も多いという結果になった。今後の移住のボリュームゾーンとなることを期待している若年層のイノベーター、アーリーアダプター層へのアプローチを行った結果である。

・イベント来場者へのアンケート回答から、イベントへの来場者のうち、40.8%が福島県内(うち12.6%は葛尾村在住)であり、県外からの来場者は45%である。県外からの来場者で最も多いのが「東京都」「神奈川県」「兵庫」「千葉」「茨城」からの来場者が多い。

・アンケート回答から、アーティストの活動が葛尾村に及ぼす効果について、「とても良い効果がある」「少しあると思う」との回答が90.3%となっている。アーティストの活動が移住者の増加に良い効果があると思いますか?という質問について、「とても効果があると思う」「少しあると思う」との回答が90.3%となっている。今後も継続してアーティストに活動してほしいという回答は90.5%にのぼった。葛尾村でアーティストが活動することに対し、良い効果を感じている様子がみられた。

・上記の回答から、移住促進に向けたメインターゲットからの反応は概ね良好であると言える。今後は移住に向けた道筋を整理し、引き続き村外のイノベーター・アーリーアダプター属性の人材へ向けたPRを強化し、チラシやポスターによるPRのみに留まらず、より積極的に村外(都市圏)での事業PRを実施していきたい。

・本事業予算は委託金で対応しているが、「作品を村に残したい」「長期間村に滞在し調査をしたい」などのアーティスト・クリエイターの要望に柔軟に対応できない事があった。企業からの協賛、別の事業として補助金を獲得するなど、移住を希望するアーティスト・クリエイターの要望により幅広く応えることができるよう検討したい。

②移住者定着に対する評価

評価

・葛尾村は、住宅が不足し移住希望者へ住宅の紹介ができない状況である。今年度も複数の移住希望者がいたものの、受け入れる住宅(空き家)が確保できておらず、移住を諦めた状況がある。

・アーティストから移住後の住居についてアンケート回答をいただいた。アーティストからは「自由にリノベーションして良い物件はありますか?」「アパートはあると聞いたが田舎に住むのであれば、一軒家とかがいいと思う。」「住むことを考えたら、いくらでどれくらいの家が借りられるのかイメージできるように、物件を案内してほしい」と要望があった。首都圏からの移住のニーズに合った住宅の確保は最優先課題であり、空き家の発掘・収集は引き続き必須である。

・葛尾村は現在住宅の整備計画を進めているが、完成には時間がかかる状況である。移住者が希望するタイミングで移住先の案内ができなければ、他の地域に移住してしまう可能性が非常に高く、費やしたコストが回収できない可能性がある。

・現状の葛尾村の状況を鑑みると、宿舎(空き家)が十分に確保できていないため、移住希望者を確保したうえで、その状態を維持していくという業務が必要である。

・放射線量についての質問は移住希望者からも多く寄せられた。移住者がアクセスしやすい公的な場での発信が必要である。

・アーティストへ「葛尾村のどのようなところが気に入ったか」アンケートをとったところ、「自然の豊かさ」を挙げる人が多かった。また、アーティストへ「葛尾村に何があったら他のアーティストへ紹介しますか?」と聞いたところ、「スタジオ、制作環境の充実」を挙げる人が多かった。

・「移住をするかわからない」と答えたアーティストへ理由を聞いたところ「まずは滞在してみたい」という声が多く、次点で「山に住むことの不安」「交通の便の悪さ」が挙げられた。また、アーティストへ「葛尾村に住むとなったら何がネックになりそうか?」と聞いたところ、「住居」「交通の便」「商店が少ない不便さ」を挙げる人が多かった。

・上記アンケートへの回答より、豊かな自然も含め、スタジオ・制作環境(廉価、広い環境、自分で改装できる環境)を求めている。一方で、交通インフラの少なさ、住居の少なさ、日常生活のコストの高さ(商店の少なさ)が移住へのハードルとなっている状況が見える。また同時に、アート事業を行っている環境へ関わることへの期待感もみられる。

■事業運営について

評価

・本事業は、一般社団法人葛力創造舎の移住定住事業チーム(通称:Katsurao Collective)が実施した。事務所は葛尾中学校(休校中)に設置した。

・実施にあたって葛尾村役場、一般社団法人葛尾むらづくり公社(葛尾村復興交流館あぜりあ)と連携を図りながら実施した。

・月に一回、村内の移住定住事業実施事業者団体である一般社団法人葛力創造舎、一般社団法人葛尾むらづくり公社、葛尾村役場、一般社団法人BOOT(※アドバイザー)4者による協議を実施した。定期的な情報共有によって事業者間の役割の整理を図った。

・事業連携について、一般社団法人葛尾むらづくり公社と連携を図って実施している状況である。一方で質的な部分(協働でのイベント実施、Webサイト上での情報連携など)については、今後もより深く連携を図れる余地がある。今後も移住定住事業実施事業者として連携を密にしていくこととしたい。

・当初は事業者間の役割の棲み分けができていない状況が目立ったが、徐々に役割の整理が進んできた。引き続き、効果的な事業運営に向けて役割の整理を進めていきたい。

・スタッフ内、関係者間で移住定住事業の内容への理解、共有が進まず、事業運営に支障をきたす場面が見受けられた。引き続き事業趣旨の理解に向けた説明を続けていくこととする。

・担当者が業務を抱え込む事態が発生し、効率的な業務分担が図られない場面があった。一部の作家からは、担当者との連絡の不備を指摘する声が上がった。今後事業を拡大していくにあたり業務の属人化を防ぐ対策が必要である。また、個別のスキルに応じた業務分担を図りつつ、契約内容の見直しなどを進め、運営体制の健全化、効率化を図りたい。

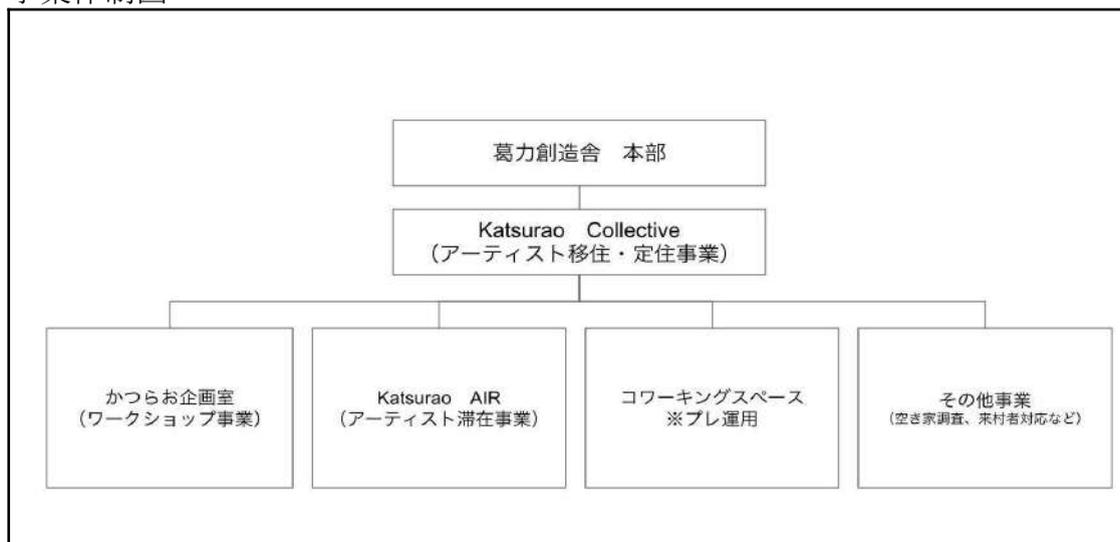
・事務局側で準備に追われ、各関係者、役場担当者への情報の伝達が遅れたり、不十分な場面があり、事業に支障をきたす場面があった。一層の情報交換の充実が必要である。

1 事業運営に関する情報

・本事業は、一般社団法人葛力創造舎の移住定住事業チーム(通称:Katsurao Collective)が実施しました。実施スタッフと業務内容は以下の通り。

名前	役職	主とする業務内容
森 健太郎	事業統括	<ul style="list-style-type: none"> ・事業全体の統括業務 ・労務管理
上野 莉歩	広報	<ul style="list-style-type: none"> ・事業全体の広報計画の作成 ・SNS運用 ・Webサイト運用
大井田 弘子	マネージャー	<ul style="list-style-type: none"> ・事務統括 ・Webサイト作成、運用 ・予算管理業務 ・報告書冊子作成担当
大山 里奈	コーディネーター	<ul style="list-style-type: none"> ・かつらお企画室事業に関する滞在作家との連絡調整、対応担当 ・コワーキングスペースの運用計画作成、運用 ・現地での滞在コーディネート ・かつらお企画室事業取りまとめ
山口 貴子	キュレーター	<ul style="list-style-type: none"> ・Katsurao AIR 事業に関する滞在作家との連絡調整、対応担当 ・Katsurao AIR 事業取りまとめ ・Webサイト作成

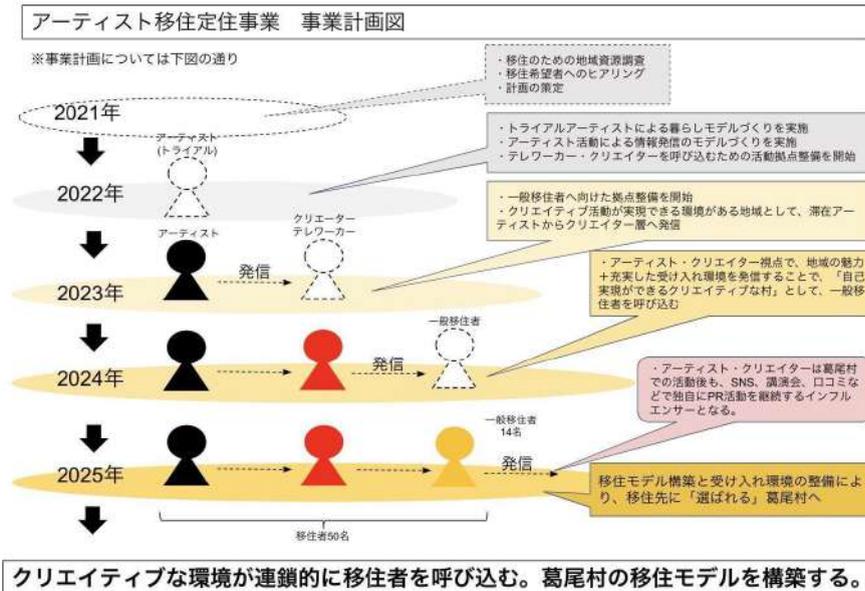
事業体制図



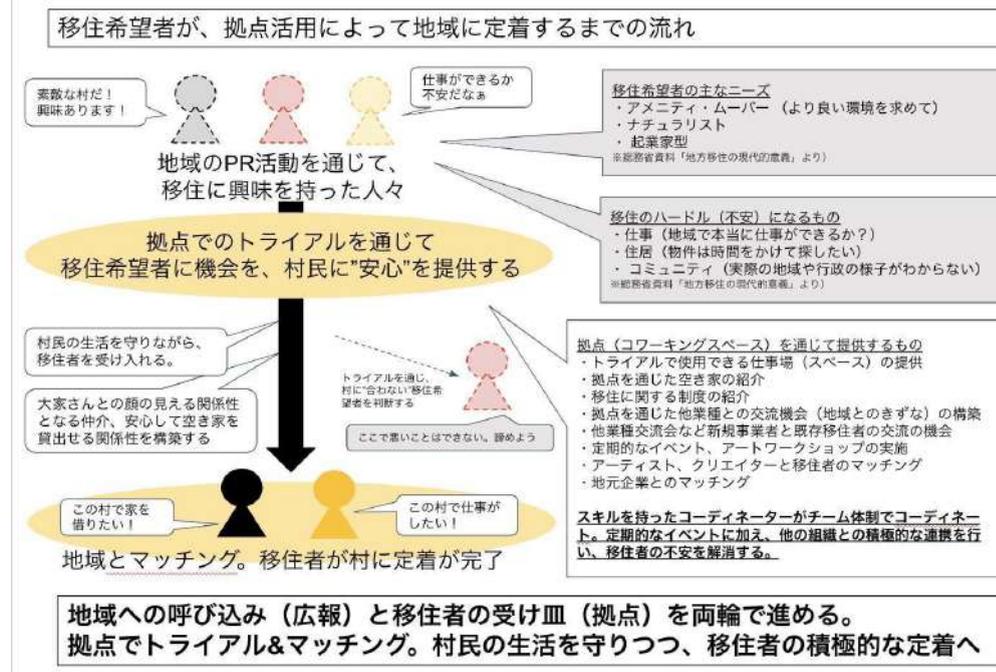
2 事業計画

- ・本年度の事業計画(5月1日時点)は以下の通りである。
- ・25年度の事業完了に向け、22年度は事業のプレ運用を実施しました。
- ・22年度は主な事業としてAIR事業、かつらお企画室事業、コワーキング運営(プレ運用)、拠点整備(滞在拠点の整備)を行いました。

事業計画1



事業計画2



3 事業内容

・本事業では、①Katsurao AIR (アーティストインレジデンス事業)、②かつらお企画室(ワークショップ事業)、③コワーキングスペースのトライアル運用、④空き教室のスタジオ利用、⑤広報活動を実施した。実施内容について以下に記述する。

①Katsurao AIR (アーティストインレジデンス事業)

・KatsuraoAIR (アーティストインレジデンス事業)は移住希望者へPRするために地域の資源を調査、発掘、PRすることを目的に実施した。実施内容は以下の通り。

アーティスト及び活動内容

滞在期間	作家名	調査・活動内容
5月～9月	石川洋樹	初の滞在アーティスト。15名の村民へのリサーチをもとに、彫刻家としてさまざまな制作プランを考え提示。休校中の中学校の設備、活用していない教室を使った作品の制作など、自身の興味を中心に、建物(中学校)の利用の可能性について提示した。期間中は自主的にトークイベントを開催。
5月～9月	赤坂有芽	口伝の伝承について調査。7名の村民の記憶や、村内で行われていた神事や神事にまつわる様式について取り上げ、アニメーションとして提示した。
10月～2月	尾角典子	「電気」「民間信仰」「現代の価値観」をテーマに、葛尾村の人々の生活の中に不可視なもの存在や民間信仰について調査。VR(バーチャルリアリティ)機器を用いて体験できる仕組みを作り出した。
10月～2月	太田祐司	村で実施している行事「ツールド葛尾」と口伝での村の歴史を組み合わせた映像を制作。古い映像機器を使用し、時間を遡る体験を作り出した。
10月～2月	山田悠	自信が継続的に行っている、地域へ日時計を制作するプロジェクト《Sun of the City》を起点に活動。村民への日時計についてのレクチャーや、地域への設置を前提とした制作プランを提示。期間中は自主的にワークショップを開催。
10月～2月	山口諒	八幡神社祭礼の際に御神輿の行列を見守る「かご馬(籠馬)」という役割があった。馬の形をかたどった板と布を被せた籠を身につけた男の子たちがこの役を担い、顔には墨で隈取りのメイクが描かれる。実際に村人にメイクを再現してもらいながら、当時の様子を調査した。

KatsuraoAIR実施イベント 来場者

実施日	内容	来場者(オンライン)
6月25日	石川洋樹「Dear Humans」トークイベント	31(18)
6月25、26日	石川洋樹「Dear Humans」作品展示	43
9月22日 ～10月10日	前期アーティストインレジデンス報告会 作品展示(赤坂有芽、石川洋樹)	160
9月23日	前期アーティストインレジデンス報告会 レセプションパーティー	39
9月24日	前期アーティストインレジデンス トークイベント	24(25)
9月22日 ～10月10日	前期アーティストインレジデンス報告会 ※復興交流館あぜりあでの展示 (展示作家:赤坂有芽)	1610

12月16～1月29日	山田悠「葛尾村の100年前。葛尾村の100年後。」ワークショップ会場設置	1933
1月15日	山田悠「ミニ時計をつくろう！」ワークショップ	14
1月27日～29日	後期アーティストインレジデンス報告会 オープンスタジオ (太田祐司、尾角典子、山口諒、山田悠、28日、アーティストトーク参加者含む)	78(25)
1月27日～29日	後期アーティストインレジデンス報告会 復興交流館あぜりあでの展示 (展示作家:山田悠)	173
合計		4105(68)

太田祐司 活動の様子



②かつらお企画室(ワークショップ事業)

・かつらお企画室(ワークショップ事業)は村の素材を用いたワークショップの実施を通じ、移住希望者と村民をつなげる機会を作り出すことを目的に実施した。実施内容は以下の通り。

実施内容

実施日	内容	テーマ
7月3日	「ニット工場で使われなくなった糸を使ってタッセルを作ろう」	地域産業との連携として、金泉ニットの残糸を使用

	講師:大内梨沙	
8月7日	「糸を使った尾っぽ作り」 講師:岡崎みゆき	地域産業との連携として、金泉ニットの残糸を使用
9月4日	「身近な植物から葛尾村の色を見つけよう」 講師:井上康子	葛尾村の植生を調査。「赤麻、猪小槌、大待宵草」の3種類を煮出して布を染め、葛尾村の色を見つけることを試みた。
10月1日	「葛尾村で『やり場のないもの』たちについて考える」 講師:竹村望	廃屋、廃棄される物質の中にあるコンテキスト(記憶、思い出)について、村外の視点から価値づけを行った
12月4日	「葛尾村の稲で縄もじりをして正月飾りを作ろう」 講師:遠藤英徳、丹伊田政治、松本和雄	縄もじりの技術を若年者に伝授した。村民へ講師を依頼し、しめ縄作りの文化の伝承を行った。
1月29日	「ニット工場で使われなくなった糸を使ってポンポンフクロウを作ろう」 講師:松本夕美	地域産業との連携として、金泉ニットの残糸を使用。村民が講師となって行った

かつらお企画室 参加者

実施日	内容	参加者(オンライン)
7月3日	「ニット工場で使われなくなった糸を使ってタッセルを作ろう」 講師:大内梨沙	12(1)
8月7日	「糸を使った尾っぽ作り」 講師:岡崎みゆき	11
9月4日	「身近な植物から葛尾村の色を見つけよう」 講師:井上康子	13
10月1日	「葛尾村で『やり場のないもの』たちについて考える」 講師:竹村望	4
12月4日	「葛尾村の稲で縄もじりをして正月飾りを作ろう」 講師:遠藤英徳、丹伊田政治、松本和雄	12
1月29日	「ニット工場で使われなくなった糸を使ってポンポンフクロウを作ろう」 講師:松本夕美	15
合計		67(1)

「ニット工場で使われなくなった糸を使ってポンポンクロウを作ろう」 ワークショップの様子



③コワーキングスペースのトライアル運用

- ・2023年度の運用に向けて、2022年度はプレ運用として実施した。年間を通じて117名の利用者、48名の見学者が訪れた。年間を通じて利用者からのフィードバックをいただいた。
- ・利用者のほとんどは学生、大学卒業後すぐの人々であった。これは移住者のターゲット層と合致する。引き続き運用を進めていくこととしたい。
- ・利用者から、どの部屋がコワーキングスペースなのかわかりづらいという要望があった。案内の配布、部屋入り口に案内看板を設置した。
- ・中学校全体の印象が暗く、利用しづらいという意見があった。明るくおしゃれな内装が良い。利用したくなる内装にしてほしいという要望があった。次年度からは内装のデザイン計画を作り実施することとした。
- ・利用者の使いたくなる設備を導入して欲しいという要望があった。ポケットWi-Fiによるインターネット環境を導入したが、本格的なテレワーク利用の際には通信量が不足する事態が発生した。引き続き環境の整備を検討する。

コワーキングスペース利用の様子



④ 空き教室のスタジオ利用

- 年間を通じてレジデンス作家6名がスタジオを活用した。
- 中学校の空き教室へ仮設壁を設置し仮スタジオを準備した。机や椅子の移動、スタジオへのポケットwi-fiの設置など、作家の要望に対応しながら運用を行った。
- 利用者からは、機材の貸出をして欲しいという要望が強くなった。葛尾村で充実した活動を行うことは、これからの移住者へのPRという側面からも重要であると考え、今後検討することとした。

空き教室のスタジオ利用の様子



⑤広報活動

・広報活動は、チラシ、ポスターの配布、SNSを用いた発信、マスメディア通じた広報、イベント会場でのPR活動を行なった。実施内容は以下の通り。

広報実施内容

実施日	内容	成果数
随時	Webサイトでの告知	未集計
随時	Facebookでの告知	別途集計
随時	Instagramでの告知	別途集計
5月1日～8日	復興交流館あぜりあ「ひとしづくのしたたり」会場でのPR	257
5月7日	復興交流館あぜりあ「ひとしづくのしたたり」イベントでのPR※	4 (オンライン8件)
5月22日	葛力創造舎実施イベント(お田植え祭)でのPR	46
6月5日	あぜりあ市での広報PR活動	80
6月15日	石川トークイベントPRチラシ (プレスリリース)	251
6月15日	かつらお企画室WSチラシ (プレスリリース)	251

6月24日	近隣市町村(田村市)の公民館でのPR活動	24
6月24日	福島民報 掲載	新聞掲載
6月20日	WS広報チラシ、村内広報挟み込み	700
6月30日	福島県博物館での事業PR活動	1
7月随時	かつらお企画室WSチラシ、近隣住民、関係者への配布	49
7月28日	KFB福島放送ふるさとシェア TV番組放映	テレビ番組
8月27日	Pinsプロジェクト来訪	2
8月27日	ふくしま国際芸術祭実行委員長堀川氏往訪	1
8月折り込み (9月配布)	かつらお企画室WSチラシ配布	700
9月24日	福島民報	ネットニュース
9月24日	福島民友	ネットニュース
9月28日	テレビ出演	テレビ番組
9月24日	福島民報	新聞掲載
9月24日	福島民友	新聞掲載
10月折り込み (11月配布)	かつらお企画室WSチラシ配布	700
12月19日	広報配布(関係機関、マスコミなど) 「Katsurao AIR 実施のご案内」	11
12月23日	・つくば栄養医療調理師製菓専門学校での事業PR(大山)	24

その他、メディア掲載一覧

雑誌

ソトコト9月号 2022年8月5日発売 株式会社ソトコト・プラネット

新聞

福島民報 2022年6月24日

福島民報 2022年9月24日

福島民友 2022年9月24日

テレビ放送

KFB福島放送「ふるさとシェア」 2022年7月28日

NHK福島放送「はまなかあいづTODAY」 2022年9月28日

KFB福島放送「ふるさとシェア」 2023年1月24日

ラジオ放送

NHK福島「ふるさとツアーズ」コーナー出演 2022年8月5日

ラジオ福島「浜通り応援ラジオ番組 明日へ」コーナー出演 2022年11月12日

Webサイト

未来をつくるSDGsマガジンソトコト 2022年10月24日

刊行物

Katsurao AIRトークイベント「持続可能性への新しい道」チラシ

Katsurao AIR 前期活動報告会チラシ、ポスター

Katsurao AIR 後期オープンスタジオチラシ、ポスター

Katsurao AIR ワークショップ「ミニ日時計を作ろう！」チラシ

かつらお企画室 ワークショップ 前期チラシ、ポスター

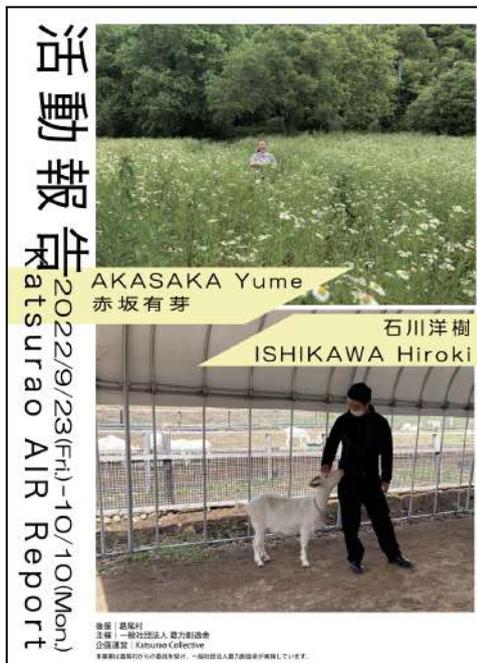
かつらお企画室 ワークショップ 後期チラシ

Katsurao Collective新聞 2022年9月号

Katsurao Collective新聞 2022年1月号

Katsurao Collective新聞 2023年4月号

▼Katsurao AIR 前期活動報告会チラシ・ポスター



▼「持続可能性への新しい道」チラシ



▼Katsurao AIR 後期オープンスタジオオチラシ、ポスター

▼Katsurao AIR ワークショップ「日時計を作ろう」チラシ

KATSURAO ARTIST IN RESIDENCE

2022年10月1日 - 2023年2月28日の期間、基層棟に在住するアーティストを紹介します。1週間ごとにご覧いただけます。期間中にはイベントも開催いたします。どうぞお楽しみください。

イベント
Work Shop ワークショップ
アーティスト 山田 悠
【9月15日(日) 10時~12時】
【9月22日(日) 10時~12時】
【9月29日(日) 10時~12時】
【10月6日(日) 10時~12時】
【10月13日(日) 10時~12時】
【10月20日(日) 10時~12時】
【10月27日(日) 10時~12時】
【11月3日(日) 10時~12時】
【11月10日(日) 10時~12時】
【11月17日(日) 10時~12時】
【11月24日(日) 10時~12時】
【12月1日(日) 10時~12時】
【12月8日(日) 10時~12時】
【12月15日(日) 10時~12時】
【12月22日(日) 10時~12時】
【12月29日(日) 10時~12時】

Open Studio オープンスタジオ
アーティスト 山田 悠
【10月27日(日) 10時~12時】
【11月3日(日) 10時~12時】
【11月10日(日) 10時~12時】
【11月17日(日) 10時~12時】
【11月24日(日) 10時~12時】
【12月1日(日) 10時~12時】
【12月8日(日) 10時~12時】
【12月15日(日) 10時~12時】
【12月22日(日) 10時~12時】
【12月29日(日) 10時~12時】

お問い合わせ: office@katsurao-collective.com

アーティスト 山田 悠

ワークショップ ミニ日時計を作ろう!

太陽の光でできる影の位置から、およその時刻がわかる壁にかけられる日時計をつくろう。

日時: 2023年1月15日(日)
①10:00-11:30 ②13:00-14:30

対象年齢: 小学校4年生から大人
持ち物: 長いもの(例: スプーン、枝など)
会場: 無料 申し込み: 不要
お問い合わせ: office@katsurao-collective.com

※完成した作品は1月27日(金)から1月29日(日)の間、基層棟立基層棟中学校(林校中)3Fに展示されます。詳しい情報はwebなどでご確認ください。

ARTIST 2022.10.1-2023.2.28

山田 悠
1988年、東京都生まれ。2011年、東京大学文学部卒業。2012年、東京大学大学院文学研究科修士課程修了。2013年、東京大学大学院文学研究科博士課程修了。2014年、東京大学大学院文学研究科博士課程退学。2015年、東京大学大学院文学研究科博士課程退学。2016年、東京大学大学院文学研究科博士課程退学。2017年、東京大学大学院文学研究科博士課程退学。2018年、東京大学大学院文学研究科博士課程退学。2019年、東京大学大学院文学研究科博士課程退学。2020年、東京大学大学院文学研究科博士課程退学。2021年、東京大学大学院文学研究科博士課程退学。2022年、東京大学大学院文学研究科博士課程退学。2023年、東京大学大学院文学研究科博士課程退学。

山田 悠
1988年、東京都生まれ。2011年、東京大学文学部卒業。2012年、東京大学大学院文学研究科修士課程修了。2013年、東京大学大学院文学研究科博士課程修了。2014年、東京大学大学院文学研究科博士課程退学。2015年、東京大学大学院文学研究科博士課程退学。2016年、東京大学大学院文学研究科博士課程退学。2017年、東京大学大学院文学研究科博士課程退学。2018年、東京大学大学院文学研究科博士課程退学。2019年、東京大学大学院文学研究科博士課程退学。2020年、東京大学大学院文学研究科博士課程退学。2021年、東京大学大学院文学研究科博士課程退学。2022年、東京大学大学院文学研究科博士課程退学。2023年、東京大学大学院文学研究科博士課程退学。

▼かつらお企画室 ワークショップ 前期チラシ

▼かつらお企画室 ワークショップ 後期チラシ

ワークショップ

「ニット工場が使われなくなった糸を使ってタッセルを作ろう!」
日時: 2022年7月3日(日) 9:00-11:30
参加費(材料費): 300円
講師: 大内梨沙

「糸を使った尾っぽ作り」
日時: 2022年8月7日(日)
①9:00-11:30 ②13:00-15:30
参加費(材料費): 300円
講師: 岡崎みゆき

「身近な植物から基層村の色を見つけよう」
日時: 2022年9月4日(日) 13:00-16:00
参加費(材料費): 500円
講師: 井上優子

ワークショップ

「基層村で『やり場のないもの』たちについて考える」
日時: 10月1日(土) 14:00-17:00
参加費: 300円
講師: 竹村望

「ニット工場が使われなくなった糸を使ってポンポンフクロを作ろう」
日時: 11月20日(日) 9:00-12:00
参加費: 300円
講師: 松本夕美

「基層村の穂もしりをして正月飾りを作ろう」
日時: 12月4日(日) 9:00-12:00
参加費: 300円
講師: 遠藤英樹 丹伊田治

▼ Katsurao Collective新聞 2022年9月号

Katsurao Collective 新聞
カツラオ コレクティブ シンブン

2022年9月号
発行 一般社団法人暴力創造舎

KatsuraoAIR
カツラオエア






今年4月から毎月1回開催されている「KatsuraoAIR (エア)」は、Katsurao Collectiveのメンバーが、KatsuraoAIRの運営を担っています。KatsuraoAIRは、Katsurao Collectiveのメンバーが、KatsuraoAIRの運営を担っています。KatsuraoAIRは、Katsurao Collectiveのメンバーが、KatsuraoAIRの運営を担っています。

かつらお企画室



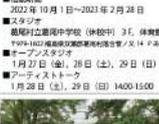
長生町の地域活動家、田代 1人1人、Katsurao Collectiveのメンバーが、KatsuraoAIRの運営を担っています。KatsuraoAIRは、Katsurao Collectiveのメンバーが、KatsuraoAIRの運営を担っています。

▼ Katsurao Collective新聞 2023年1月号

Katsurao Collective 新聞
カツラオ コレクティブ シンブン

2023年1月号
発行 一般社団法人暴力創造舎

Katsurao AIR



【Katsurao AIR 2022 後期概要】
■展示アーティスト
本誌掲載：橋内博子、山田聡、山田彰
■法政学院
2022年10月1日～2023年2月28日
■スナック
船橋立憲中学校 (中学校) 3F、体育館
〒984-1402 船橋市東部東船橋台5番14-1号
■アーティストトーク
1月27日 (金)、28日 (土)、29日 (日) 10:00-16:00
1月28日 (土)、29日 (日) 14:00-15:00

かつらお企画室



9月1日開催された「KatsuraoAIR」は、Katsurao Collectiveのメンバーが、KatsuraoAIRの運営を担っています。KatsuraoAIRは、Katsurao Collectiveのメンバーが、KatsuraoAIRの運営を担っています。

▼ Katsurao Collective新聞 2023年4月号

Katsurao Collective 新聞
カツラオ コレクティブ シンブン

2023年4月号
発行 一般社団法人暴力創造舎

Katsurao AIR






2023年4月号のKatsuraoAIRは、Katsurao Collectiveのメンバーが、KatsuraoAIRの運営を担っています。KatsuraoAIRは、Katsurao Collectiveのメンバーが、KatsuraoAIRの運営を担っています。

かつらお企画室



12月1日、かつらお企画室のメンバーが、KatsuraoAIRの運営を担っています。KatsuraoAIRは、Katsurao Collectiveのメンバーが、KatsuraoAIRの運営を担っています。

⑥ 報告書冊子制作

・活動を記録し、継続してアーティスト・クリエイター層にPRを行うため、活動を取りまとめた報告書冊子の制作を行った。報告書冊子は関係者へ配布するほか、23年度以降の事業PRのために活用する予定。

・制作にあたって、福島県双葉郡富岡町で活動を行っている林暁甫氏（NPO法人インビシブル理事長、女子美術大学非常勤講師）へ寄稿いただいた

報告書冊子(表紙)



※3月25日時点

報告書冊子(抜粋)



※3月25日時点



Katsurao AIR

前期活動期間

2022.5.1 - 2022.9.30

葛尾村滞在 30日間

<p>訪問芸術アーティスト Invited Artists for the First Term</p>	<p>赤坂有寿 / 石川洋樹 AKASAKA Yume / ISHIKAWA Hiroki</p>
<p>展覧会 EXHIBITION</p>	<p>Travel in the Hole トラベルインザホール</p> <p>【会場】 2022.9.23(金・祝)-2022.10.10(月・祝)</p> <p>【会場】 葛尾村立葛尾中学校(休校中) 1F / 3F / 体育館 葛尾村復興交流館あざりあ 交流スペース2</p>
<p>アーティストトーク ARTIST TALK</p>	<p>【日時】 2022.9.24(土) 14:00-15:30</p> <p>【会場】 葛尾村復興交流館あざりあ 交流スペース1</p> <p>【登壇者】 赤坂有寿 / 石川洋樹 AKASAKA Yume / ISHIKAWA Hiroki</p> <p>【モデレーター】 五十嵐純 IGARASHI Jun</p>
<p>関連イベント EVENT</p>	<p>【日時】 2022.6.25(土) 13:00-14:30</p> <p>【内容】 トークイベント「持続可能性への新しい道」</p> <p>【会場】 葛尾村復興交流館あざりあ 交流スペース1</p> <p>【登壇者】 石川洋樹 / 田嶋陽一 ISHIKAWA Hiroki / TAO Yoichi</p>

※3月25日時点

Workshop Vol.3

身近な植物から葛尾村の色を見つけよう

Discover the Colours of Katsurao With Common Plants

このワークショップは井上が葛尾村に自生している植物をリサーチすることから始まりました。葛尾村を歩き植物をリサーチした中から、ワークショップを開催する季節や植物の量から使用する草木を決定しました。当日は、身近な植物である「赤麻、鈍小雀、大背青草」の3種類を抽出して布を染め、葛尾村の色を見つけることを試みました。染め方の模様は、染色技法の中でも一番歴史の古い繰染（こうけち）の振袖模紋をヒントに模写を行いました。

作品の完成には、予想を超えた色や模様を楽しみながら参加者それぞれ作品を見ていただきました。それぞれの場所によっても、葛尾村の色が手垢ないとしてだけでなく、季節毎の記憶として残っているのではないのでしょうか。

参加者人数：15名
日時：2022年9月4日(日) 13:00-16:00

Inoue began by researching the native plants of Katsurao. She walked around the village and decided which she would use based on the amount of each plant and the season in which the workshop would be held. On the day of the workshop, she and the participants took three common plants, akase, hokozuchi, and large-flowered evening primrose, and boiled them and dyed fabrics to try and find the colours of Katsurao. She used Rinsen shibori, a traditional "how-japan" dyed fabric style of regional resist dyeing to apply the patterns to the fabric. The patterns and colours of the finished creations exceeded all expectations and the participants enjoyed looking at each other's work. After everyone went home, the colours of Katsurao live on not only as unique towels, but as the memories of the workshop participants.

Number of Participants: 15
Time: 13:00-16:00 Sunday, September 4, 2022

Workshop Leader

講師紹介

井上康子 INOUE Yasuko

2010 京都造形芸術大学大学院(短大専攻修士課程)
京都造形芸術大学専攻(修士課程) 染織学
2015-2016 筑波大学大学院(修士課程) 染織学
2017 海外を拠点に活動中

【展覧会】
2010 写真と染めものまつり(石と紙)染織の芸術的
2010 1st KYOTO染織国際フェスティバル/京都
染織美術館(京都)
2014,2015,2017 染織国際博覧会/京都府立総合文化センター
(京都)

【受賞歴】
2021 国際芸術家奨励賞 Kyoto Art for Tomorrow
国際芸術家奨励賞

2012 MFA in Textile Design at Kyoto University of
Art and Design (Now Kyoto University of the
Arts)

2015-2016 Post-grad instructor in textile design at Kyoto
University of Art and Design

2020 Working based in Tokyo

【Past Exhibitions】
2012 Interaction of Photography and Dyeing Arts at
Institute of Social Science in Tokyo
2016 1st KYOTO Kyoto First Art Triennale at the
Kyoto City KYOCERA Museum of Art
2014,2015,2017 Kyoto Textile Art Festival at 12 textile halls
around the city of Kyoto.

【Awards】
2021 The Minor Kawai Shimbun Kyoto Award at
Kyoto Art for Tomorrow







※3月25日時点

2022年度 メディア実績		事業構造																																																								
<p>【前編】 ソトコト9月号 2022年8月5日発売 株式会社ソトコト・プラネット</p> <p>【新編】 福島民報 2022年6月24日 福島民報 2022年9月24日 福島民報 2022年9月24日</p> <p>【テレビ放送】 KFB福島放送「ふるさとシェア」2022年7月28日 NHK福島放送「はまなかあひづ TODAY」2022年9月28日 KFB福島放送「ふるさとシェア」2023年1月24日</p> <p>【ラジオ放送】 NHK福島「ふるさとワーズ」コーナー出演 2022年8月5日 ラジオ福島「高橋りおほろラジオ番組 明日へ」コーナー出演 2022年11月12日</p> <p>【Webサイト】 未来をつくる50Gsマガジンソトコト 2022年10月24日</p> <p>【刊行物】 Katsurao AIR トークイベント「持続可能性への新しい道」チラシ Katsurao AIR 前期活動報告会チラシ、ポスター Katsurao AIR 後期オープンスタジオチラシ、ポスター Katsurao AIR ワークショップ「ミニ日時計を作ろう!」チラシ</p> <p>かつらお企画室 ワークショップ 前期チラシ、ポスター かつらお企画室 ワークショップ 後期チラシ</p> <p>Katsurao Collective 新聞 2022年9月号 Katsurao Collective 新聞 2023年1月号 Katsurao Collective 新聞 2023年4月号</p>	<p>事業部</p> <p>専務取締役 本部</p> <p>Katsurao Collective (アーティスト移住・定住事業)</p> <p>かつらお企画室 (ワークショップ事業)</p> <p>Katsurao AIR (アーティスト滞在事業)</p> <p>コワーキングスペース ※プラン適用</p> <p>その他事業 (国庫事業、農村会館など)</p> <p>Katsurao AIR 実施企画・イベント</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施日</th> <th>内容</th> <th>来場者(回数)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6月25日</td> <td>トークイベント「持続可能性への新しい道」 石川洋樹 ゲスト：田尾真一（オンライン配信） 会場：尾尾村復興交流館あげりあ 交流スペース1</td> <td>31(1回)</td> </tr> <tr> <td>8月25、26日</td> <td>石川洋樹 過去作品展覧会 (Dear Humans) 会場：尾尾村復興交流館あげりあ 書</td> <td>43</td> </tr> <tr> <td>9月28日-10月10日</td> <td>アーティスト・イン・レジデンス群衆活動報告 森橋有芽 石川洋樹 Travel in the Hole：会場：尾尾村立尾尾中学校（休校中）</td> <td>228</td> </tr> <tr> <td>9月23日</td> <td>ワークショップ「アーティスト」 会場：尾尾村復興交流館あげりあ 交流スペース1</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>9月24日</td> <td>アーティストトーク 森橋有芽 石川洋樹 ファシリテーター：五十高純 （オンライン配信）会場：尾尾村復興交流館あげりあ 交流スペース1</td> <td>24 (25)</td> </tr> <tr> <td>9月23日-10月10日</td> <td>アーティスト・イン・レジデンス群衆活動報告 森橋有芽 会場：尾尾村復興交流館あげりあ 交流スペース2</td> <td>1019</td> </tr> <tr> <td>12月10日-1月10日</td> <td>ワークショップ会場設置「尾尾村の100年」 山田悠 会場：尾尾村復興交流館あげりあ 交流スペース2</td> <td>1903</td> </tr> <tr> <td>1月16日</td> <td>ワークショップ「ミニ日時計を作ろう!」 山田悠 会場：尾尾村復興交流館あげりあ 交流スペース2</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>1月27日-29日</td> <td>アーティスト・イン・レジデンス群衆活動報告 太田祐亮 尾角典子 山口謙 山田悠 オープンスタジオ 会場：尾尾村立尾尾中学校（休校中）</td> <td>86</td> </tr> <tr> <td>1月28日</td> <td>アーティストトーク 太田祐亮 尾角典子 山口謙 山田悠（オンライン配信） 会場：尾尾村立尾尾中学校（休校中） コンピューター室</td> <td>20 (20)</td> </tr> </tbody> </table> <p>かつらお企画室 実施企画・イベント</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施日</th> <th>内容</th> <th>来場者(回数)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7月3日</td> <td>「ネット上で使われなくなった車を役立ててリサイクルを作ろう!」 講師：大内梨沙（オンライン配信）</td> <td>12 (1)</td> </tr> <tr> <td>8月7日</td> <td>「あそびながら気づく!」講師：岡崎みゆき</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>9月4日</td> <td>「身近な動物から環境の息を嗅ぎつけよう」講師：井上康子</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>10月1日</td> <td>「尾尾村で「やうちのなにも」たちについて考える」講師：竹村望</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>12月4日</td> <td>「暮らしの指ででもじやまをして正歩調を作ろう!」講師：遠藤英徳</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>12月17日-1月20日</td> <td>「出展かつらお企画室」岡崎みゆき 井上康子 作品展示 会場：せせりま荘</td> <td>540</td> </tr> <tr> <td>1月20日</td> <td>「ネット上で使われなくなった車を役立ててリサイクルを作ろう!」 講師：松本夕美</td> <td>15</td> </tr> </tbody> </table> <p>Katsurao AIR 参加作家 森橋有芽 石川洋樹 太田祐亮 尾角典子 山口謙 山田悠</p> <p>かつらお企画室 講師 大内梨沙 岡崎みゆき 井上康子 竹村望 遠藤英徳 丹野田政治 松本和雄 松本夕美</p>	実施日	内容	来場者(回数)	6月25日	トークイベント「持続可能性への新しい道」 石川洋樹 ゲスト：田尾真一（オンライン配信） 会場：尾尾村復興交流館あげりあ 交流スペース1	31(1回)	8月25、26日	石川洋樹 過去作品展覧会 (Dear Humans) 会場：尾尾村復興交流館あげりあ 書	43	9月28日-10月10日	アーティスト・イン・レジデンス群衆活動報告 森橋有芽 石川洋樹 Travel in the Hole：会場：尾尾村立尾尾中学校（休校中）	228	9月23日	ワークショップ「アーティスト」 会場：尾尾村復興交流館あげりあ 交流スペース1	39	9月24日	アーティストトーク 森橋有芽 石川洋樹 ファシリテーター：五十高純 （オンライン配信）会場：尾尾村復興交流館あげりあ 交流スペース1	24 (25)	9月23日-10月10日	アーティスト・イン・レジデンス群衆活動報告 森橋有芽 会場：尾尾村復興交流館あげりあ 交流スペース2	1019	12月10日-1月10日	ワークショップ会場設置「尾尾村の100年」 山田悠 会場：尾尾村復興交流館あげりあ 交流スペース2	1903	1月16日	ワークショップ「ミニ日時計を作ろう!」 山田悠 会場：尾尾村復興交流館あげりあ 交流スペース2	5	1月27日-29日	アーティスト・イン・レジデンス群衆活動報告 太田祐亮 尾角典子 山口謙 山田悠 オープンスタジオ 会場：尾尾村立尾尾中学校（休校中）	86	1月28日	アーティストトーク 太田祐亮 尾角典子 山口謙 山田悠（オンライン配信） 会場：尾尾村立尾尾中学校（休校中） コンピューター室	20 (20)	実施日	内容	来場者(回数)	7月3日	「ネット上で使われなくなった車を役立ててリサイクルを作ろう!」 講師：大内梨沙（オンライン配信）	12 (1)	8月7日	「あそびながら気づく!」講師：岡崎みゆき	12	9月4日	「身近な動物から環境の息を嗅ぎつけよう」講師：井上康子	15	10月1日	「尾尾村で「やうちのなにも」たちについて考える」講師：竹村望	6	12月4日	「暮らしの指ででもじやまをして正歩調を作ろう!」講師：遠藤英徳	12	12月17日-1月20日	「出展かつらお企画室」岡崎みゆき 井上康子 作品展示 会場：せせりま荘	540	1月20日	「ネット上で使われなくなった車を役立ててリサイクルを作ろう!」 講師：松本夕美	15
実施日	内容	来場者(回数)																																																								
6月25日	トークイベント「持続可能性への新しい道」 石川洋樹 ゲスト：田尾真一（オンライン配信） 会場：尾尾村復興交流館あげりあ 交流スペース1	31(1回)																																																								
8月25、26日	石川洋樹 過去作品展覧会 (Dear Humans) 会場：尾尾村復興交流館あげりあ 書	43																																																								
9月28日-10月10日	アーティスト・イン・レジデンス群衆活動報告 森橋有芽 石川洋樹 Travel in the Hole：会場：尾尾村立尾尾中学校（休校中）	228																																																								
9月23日	ワークショップ「アーティスト」 会場：尾尾村復興交流館あげりあ 交流スペース1	39																																																								
9月24日	アーティストトーク 森橋有芽 石川洋樹 ファシリテーター：五十高純 （オンライン配信）会場：尾尾村復興交流館あげりあ 交流スペース1	24 (25)																																																								
9月23日-10月10日	アーティスト・イン・レジデンス群衆活動報告 森橋有芽 会場：尾尾村復興交流館あげりあ 交流スペース2	1019																																																								
12月10日-1月10日	ワークショップ会場設置「尾尾村の100年」 山田悠 会場：尾尾村復興交流館あげりあ 交流スペース2	1903																																																								
1月16日	ワークショップ「ミニ日時計を作ろう!」 山田悠 会場：尾尾村復興交流館あげりあ 交流スペース2	5																																																								
1月27日-29日	アーティスト・イン・レジデンス群衆活動報告 太田祐亮 尾角典子 山口謙 山田悠 オープンスタジオ 会場：尾尾村立尾尾中学校（休校中）	86																																																								
1月28日	アーティストトーク 太田祐亮 尾角典子 山口謙 山田悠（オンライン配信） 会場：尾尾村立尾尾中学校（休校中） コンピューター室	20 (20)																																																								
実施日	内容	来場者(回数)																																																								
7月3日	「ネット上で使われなくなった車を役立ててリサイクルを作ろう!」 講師：大内梨沙（オンライン配信）	12 (1)																																																								
8月7日	「あそびながら気づく!」講師：岡崎みゆき	12																																																								
9月4日	「身近な動物から環境の息を嗅ぎつけよう」講師：井上康子	15																																																								
10月1日	「尾尾村で「やうちのなにも」たちについて考える」講師：竹村望	6																																																								
12月4日	「暮らしの指ででもじやまをして正歩調を作ろう!」講師：遠藤英徳	12																																																								
12月17日-1月20日	「出展かつらお企画室」岡崎みゆき 井上康子 作品展示 会場：せせりま荘	540																																																								
1月20日	「ネット上で使われなくなった車を役立ててリサイクルを作ろう!」 講師：松本夕美	15																																																								

※3月25日時点

4 予算執行

- ・当初はコロナウイルスの感染状況を考慮して、当初の半数の招聘で事業をスタートした。契約金額は29,623,000円(総額)として事業を開始した。コロナウイルス感染状況の改善を受けて、9月20日に契約内容を変更。契約金額は8,866,000円(税込)増額とし、総額38,489,000円(税込)として事業を実施することとした。
- ・8月、11月、1月に概算払い請求を行った。
- ・年間を通じておおむね計画通りの予算執行ができた。アーティストの滞在の長期化などで、想定していなかった支出の増加があるなどしたが、他の事業費と相殺する形で収支を合わせる事ができた。

歳入(単位:千円)

項目	内容	合計
事業委託金	事業委託費	38,489
収入	かつらお企画室 ワークショップ材料費	24
計(税込)		38,513

歳出(単位:千円)

項目	費目	合計	
①拠点整備	業務委託費	スタジオ什器制作、撮影費用など	493
	借用費	展示作品賃借	440
	借用費	プリンター、工具など	739
	消耗品費	消耗品の購入	2,743
	謝金	ワークショップ講師謝金など	264
	交通費	ワークショップ講師交通費	228
	通信費	ソフトウェア導入など	124
計		<u>5,033</u>	
②AIR事業	補助人件費(日当)	アーティスト活動への日当	1,321
	補助人件費(活動発表準備)	報告会準備にかかる費用	198
	旅費交通費	アーティスト招聘にかかる旅費	416
	賃借料	作品展示にかかる賃借料	1,452
計		<u>3,387</u>	
③運営 管理費	人件費	給与	18,007
	人件費	社会保険料	2,696
	通信運搬費	機材運搬、通信費、振込手数料	86
	交通費	PRイベントへの参加、営業など	295
	旅費	先進地視察、出張にかかる旅費など	767
	車両リース代	アーティスト村内移動用レンタカー借用	490
	通信費	ポケットWi-Fiなど	232
	印刷製本費	報告書冊子制作にかかる費用	4,161
計		<u>26,738</u>	
一般管理費		<u>3,499</u>	
計(税込)		<u>38,658</u>	

5 関連事業

・本事業の成果を高めるため、アーティストを地域につなげ地域の理解を深めるためため。弊社で実施している地域事業に、アーティストの参加を促した。関連事業は以下の通り

イベント一覧

実施日	表題	内容	来場者(オンライン)
5月22日	葛尾御田植祭	田植え&交流イベントを実施。参加者の交流を深め、葛尾の自然や歴史にも心をよせる機会として企画。アーティストへ参加を促した	42人
8月21日	宝財踊り復活公演	宝財踊りの復活公演を実施。アーティストへ参加を促した	40人
10月2日	葛尾新嘗祭	稲刈りイベントを実施。参加者の交流を深め、葛尾の自然や歴史にも心をよせる機会として企画。アーティストへ参加を促した	55人
10月15日	ザ・かつらお巡りツアー	葛尾村での小商の可能性を探るツアーを開催。アーティストへ参加を促した	21人
11月12日	八幡神社例大祭復活	野川地区の八幡神社の祭礼を復活。40年ぶりの神輿行列を行った。アーティストへ参加を促した	98人
合計			256人

葛尾新嘗祭



ザ・かつらお巡りツアー



■各月の主な活動内容

各月の主な活動は以下の通り

5月の主な活動

- ・事業開始
- ・招聘予定アーティストと活動開始にかかる調整など
- ・ワークショップ講師の決定
- ・滞在アーティスト2名(赤坂、石川)の村内アテンド
- ・フェイスブックページの準備(プレ運用の開始)
- ・Webサイト作成準備

6月の主な活動

- ・プレスリリース発信
- ・滞在アーティスト2名(赤坂、石川)滞在開始
- ・SNSによるPR活動開始

7月の主な活動

- ・Webサイトオープン
- ・かつらお企画室WS「ニット工場で使われなくなった糸を使ってタッセルを作ろう」講師:大内梨沙
- ・アーティスト2名(赤坂、石川)滞在

8月の主な活動

- ・かつらお企画室WS「糸を使った尾っぽ作り」講師:岡崎みゆき
- ・アーティスト2名(赤坂、石川)滞在

9月の主な活動

- ・かつらお企画室WS「身近な植物から葛尾村の色を見つけよう」講師：井上康子
- ・記者会見の実施
- ・後期AIR参加作家の村内アテンド
- ・滞在アーティスト2名(赤坂、石川)活動報告会の開催(9月23日～10月10日)

10月の主な活動

- ・滞在アーティスト2名(赤坂、石川)活動報告会の開催(9月23日～10月10日)
- ・かつらお企画室WS「葛尾村で『やり場のないもの』たちについて考える」講師：竹村望
- ・後期滞在アーティスト4名(太田、尾角、山口、山田)との連絡調整開始。
- ・十日町視察(10月27日)

11月の主な活動

- ・後期AIR参加作家4名(太田、尾角、山口、山田)が葛尾村への滞在を開始
- ・かつらお企画室11月ワークショップ、諸事情により中止(1月に再度開催)
- ・報告書冊子作成準備(デザイナー選定など)
- ・活動広報用チラシ、カツラオコレクティブ新聞の制作(印刷・配布は12月)
- ・23年度計画準備開始

12月の主な活動

- ・せせらぎ荘でのかつらお企画室PR企画「出張かつらお企画室」の打ち合わせ
- ・公社サイクリング事業への協力など
- ・アーティスト山田悠「葛尾村の100年前。葛尾村の100年後。」ワークショップ 開催(12月16日～1月29日)

1月の主な活動

- ・アーティスト山田悠「ミニ日時計をつくろう！」ワークショップ開催
- ・後期AIR(1月27日～29日)、オープンスタジオ(トークイベント)実施(太田、尾角、山口、山田)
- ・せせらぎ荘でのかつらお企画室PR企画「出張かつらお企画室」の実施完了
- ・かつらお企画室ワークショップ「ニット工場で使われなくなった糸を使ってポンポンフクロウを作ろう」講師：松本夕美 実施
- ・公社「世界に一つだけの自転車を作るワークショップ」実施協力

2月の主な活動

- ・アーティストスタジオ撤収対応
- ・活動報告書冊子デザイン業務
- ・報告書作成準備業務

3月の主な活動

- ・活動報告書冊子デザイン業務
- ・事業統括報告書作成
- ・次年度事業に向けた関係者との調整

■次回の実施に向けて

葛尾村はもともと農業が中心の地域であり、アートやクリエイティブ産業の下地が無い地域であった。21年度には地域調査により活用できる地域資源の洗い出しを行い、22年度からはそれらをアーティスト・クリエイターの視点から形にすることをを行った。

事業を行う中で、県内外のアーティスト・クリエイターからの注目度の高さを感ずることができた。これは本事業が始まったばかりという目新しさもあるだろうが、21年度に制定した本事業の基本的な構想が効果的に働いていることも理由の一つであろう。一方、村内に目を向けてみると、まだ村民への事業趣旨の理解が追いついていない状況が見受けられる。

本事業は、村外への地域PRが大きな目的であるが、同様に地域イメージの形成、受け入れ態勢の醸成も目的のひとつである。そのような目的の達成には相応の時間をかける必要があり、本事業を移住定住へとつなげていくためには、継続して本事業の趣旨を村民へ周知するとともに、村民が成果を感じられる状況を意識的に作り出す必要がある。次年度からは、事業のグランドコンセプトの明確化、情報発信の強化、村内への作品の設置活動をなどを増やし、村内外への事業の趣旨と理解を増やすこととしたい。

運営は、5名の専門スタッフでチームを組んで行うことで体制の充実を図った。次年度以降も引き続き、他組織との連携、広報力の強化など、実務体制の強化を図っていききたい。また、活動の面では、引き続き本事業を応援し支えてくれる人々を増やすこと、さらなる住民参加の機会を創出すること、村内外のさまざまな人々との関わりの強化していく必要がある。そのため、次年度からは村にある各集落へ積極的に関わり、意識的に集落単位での関わりを創出していききたい。

また”アート”というジャンルを事業の中心としている本事業の性格上、外部からの応援や、事業実施に前向きな雰囲気作りが事業成功に大きく寄与していく。行政や民間を問わず、繋がりをしっかりと強め、事業のフォロワーを増やしていくことが必要である。

移住者獲得もアートも、さまざまな評価軸を持ってその成果を図ることが可能である。移住定住事業として成果数値を獲得することは重要であるが、一方で本事業の実施を通じ、村民同士が協力する態度を醸成し、世代交代を促し、移住定住にむけた新たなフェーズに移行するきっかけとなることも、本事業の取り組みを通じて葛尾村が獲得する重要な成果であると考ええる。

1年間の事業実施を通じ、移住定住事業の完了に向けた諸問題の洗い出しも進んでいる。全体を通じた大きな課題として、移住者の住居の確保が挙げられた。これは移住定住事業を行う各組織の連携を図り進めることで合意した。同様に、空き家の一斉調査、関係人口の洗い出し、村外へ向けた葛尾村のPRなどは、すでに次年度に向けた話し合いの場がもたれている。

当初の計画に則るならば、次年度は各プログラムの本格的な運用を開始し、葛尾村へ移住する人々へのPRへとつながる取り組みとする予定である。さらに内容を充実させ、魅力的に感じてもらえる取り組みとしていかなければならない。県内外で大きく注目されている現状を鑑み、国がアートを活用した福島県の復興に力を入れていることも踏まえて、このような状況を十分に生かしながら、引き続き次年度の実施に向けた準備を進めていくこととしたい。

事業統括 森健太郎